

2013年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	無機化学 I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(バイオサイエンスコース)/必修科目(食品生物資源コース)/必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	西田 哲明						
授業の到達目標 (シラバスから)	1. 周期表上における典型元素の位置と電子配置の関係を説明できる。 2. 簡単な分子の構造と化学的性質を説明できる。 3. 簡単な分子の化学構造(分子構造)を理解し、記述できる。 4. 上記1～3を踏まえて、代表的な各種固体物質の構造と物性・機能性を記述できる。						
日程と内容	4/8 導入講義：授業の概要と進め方、成績評価法について説明する。元素の起源など 4/15 原子の構成と原子モデル 4/22 電子の軌道と量子数、原子軌道 4/29 パウリの排他律、構成原理、フントの法則 5/13 元素の電子配置(電子構造)と周期表 5/20 元素の一般的性質と周期性 5/27 スレータの規則 6/3 イオン化エネルギーと電子親和力 6/10 イオン化エネルギーと電子親和力(中間試験含む) 6/17 電気陰性度 6/24 共有結合とオクテット則、分子軌道法の基礎 7/1 超原子価化合物、原子価結合法、混成軌道 7/8 結合の分極、双極子モーメント、赤外活性とラマン活性 7/15 分子軌道法その1 7/22 分子軌道法その2 7/29 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%			
	臨時試験	30%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	1. 周期表上における典型元素の位置と電子配置の関係を説明できるようになった。 2. 簡単な分子の構造と化学的性質を説明できるようになった。 3. 簡単な分子の化学構造(分子構造)を理解し、記述できるようになった。 4. 上記1～3を踏まえて、代表的な各種固体物質の構造と物性・機能性を記述できるようになった。						
反省点	月曜4限目にも関わらず、新入生は全員真剣に授業に参加していた。						
来年度の計画	全員が総合評価9点以上を付けてくれるよう、満足度の高い授業を目指したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価(10点満点)で8.2(65名回答)となり、そのうち32名(49%)が9点または10点を付けてくれた。個別の設問項目においても、多くの項目について4.1～4.3(5段階評価)の評価点であったが、授業内容が理解できない学生が6名いた。授業の予習、復習をしない、と答えた学生が4名いた。						
履修登録者数	71名	定期試験 受験者数	67名	合格者数	65名	合格率	97%